

島根県公共事業再評価 対応方針（案）

作成日 令和5年6月

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響	今後の県の方針案
	(事業概要) (事業主体の根拠)	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	(事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の熟度)	(費用対効果) (コスト削減・代替案等) (その他の効果)	(生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	(継続・中止)
14	(事業名・地区) 斐伊川（横田） 広域河川改修事業 (事業位置) 仁多郡奥出雲町 大呂～竹崎 (事業費) 2,022,000 千円 (事業概要) 全体延長 L=3,560m 掘削、護岸、樋管、 床止、橋梁 (事業主体の根拠) 河川法第9条2項 (再評価区分) ④再評価実施後5 年経過している継続 中の事業 (担当部課名) 土木部河川課	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度: 1988(S63)年度 用地着手年度: 1988(S63)年度 工事着手年度: 1988(S63)年度 完了予定年度: 2028 (R10)年度 経過年数: 35 年 (進捗状況と今後の見込み) 令和5年当初までの事業費で進捗率を記載 進捗率: 90% 用地: 96% 工事: 89% 令和10年度完了予定	(事業導入の経緯・目的) 河道状況は、河積が少なく古くから砂鉄採取のため「鉄穴流し」が行われており、流砂が激しく取水固定堰による河床の上昇などにより、出水に著しく危険な状態であるにもかかわらず、数ヶ所の災害復旧工事が行われているだけであった。そこで抜本的治水対策が必要となった。 (事業を取り巻く社会情勢) 河川改修と同時並行で実施していた県道整備が H29 年に完了し、地域及び周辺住民から河川の早期完成が望まれている。 ソフト対策として、島根県水防情報システムにより雨量、水位や河川カメラ映像を配信し、防災意識の向上を図っている。 (事業に対する地元情勢・計画の熟度) 沿川住民は再度災害防止のため、河川改修の早期完成を強く望んでおり、事業には協力的である。 地元である奥出雲町からは毎年本河川の事業促進について要望書が提出されている。	(費用対効果) b / c = 1.69 (コスト削減・代替案等) 事業の実施にあたっては、改修によって発生する自然石を護床工に流用するとともに、残土の有効利用等を図り、コスト削減に努めている。 (その他の効果) 河川改修と県道整備により、安全な生活基盤の確保や安定が図れる。	(生活環境・自然環境への影響) 環境配慮の取組状況 ・共通配慮事項 別添『取組シート』のとおり (事業を中止した場合の影響) 現況流下能力が計画に対して約6割と低く、浸水被害が発生する可能性が高い。 ・浸水被害履歴 S39、47、51、57、60	(方針案) 継続 (継続・中止の理由) 現況流下能力が低く、浸水被害の解消が図れていないため、治水対策を継続する必要がある。

斐伊川 広域河川改修事業

河川概要

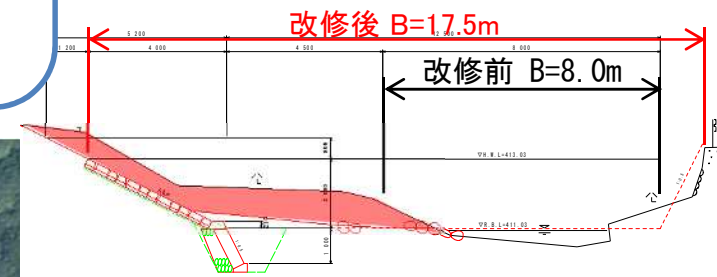
斐伊川は、その源を奥出雲町の船通山に発し、県東部を流下し宍道湖に注ぐ河川である。改修区間である上流部は、八岐大蛇伝説の舞台で知られる奥出雲を中心とした流域面積約279km²の圏域になる。

改修区間の周辺には幼稚園、小学校等の公共施設もあり、また並行して位置する県道印賀奥出雲線は鳥取県へのアクセス道路として利用されている。

また、奥出雲町は『仁多米』の産地としても有名で、古くから農業が盛んである。この農業用水に用いる取水堰の影響で河床の上昇や出水時の堰上げにより度々浸水被害に見舞われ、特に昭和47年には家屋・農地等に大きな浸水被害が発生したことから、洪水被害防止を目的とした河川改修が必要とされている。

事業概要

1. 掘削及び護岸構築により、著しく不足する流下能力を向上し、浸水被害の解消を図る。
2. 並行して位置する県道の整備と連携して事業を進めることにより、住民の生命と財産の安全性を確保する。



①出水状況(S47.7 上流部)



②改修状況(R5.5)

